

ナロジチ住民の病気

私たちが救援の対象としているウクライナの放射能汚染地域「ナロジチ」には今も 10000 人を超える人々が暮らしている。本来ならこの地域は全員が安全な場所に移住しなければならないが、ウクライナの経済破綻により移住政策は挫折し、この地域は「住んでも良い地域」に格上げ（格下げ？）されたのである。この地域の救援をさらに充実させるために、私たちはナロジチ地区の 23 の地域病院や診療所にアンケート調査を実施した。ここに紹介するのはその結果の 1 部である。

若者が流出し高齢者が残ったナロジチ

ナロジチ地区は訪問の度に寂れていく様子がわかる。以前にも書いたが、戸外に人の姿はなく家々の窓は閉ざされている。若者は未来のないこの町から逃げ出し、子どもと老人が残った。その様子がこのアンケート結果からも見て取れる。右の表はナロジチ地区にある地区病院と村の診療所合計 23 の対象人口と、その病院・診療所の扱う主な病気をあげたものである。アンケートの大まかなまとめで、病気の分類や全部の診療所が答えていないなど不完全ではあるが、この地域の病気の様子は良くわかる。一言で言えば、住民の多くは高齢者特有の、高血圧、心臓病、骨軟化症などの典型的な成人病に罹っている。

病気の原因は高齢化と貧困、放射能

これらの病気は一般に高齢者に多いものだが、ナロジチ地区ではそればかりが原因ではない。チェルノブイリ事故による放射能汚染で、この地域の特産だった「ナロジチ織り」の繊維産業は崩壊し、人々の働く場は奪われ、収入の道は閉ざされ人々を貧困が襲った。土壌汚染で十分な農業も出来なくなった。その様子は南部の非汚染地域と比べれば一目瞭然である。貧困は偏った栄養を人々に強制する。また、放射能汚染のために今でも 90%以上が基準を超える「きのこ」や「ベリー類」を森で採取し食べている人々も居る。牧草の汚染で食肉も汚染している。

診療所があげた 多い病名	病院 診療所数	対象人口* (人)
高血圧	16	7635
虚血性心疾患	7	4869
気管支炎	6	2175
骨軟化症	5	3415
心臓血管系疾患	3	1053
甲状腺疾患	2	1957
腎盂炎	2	3146
胆嚢炎	2	1507
胃炎	1	62
すい臓炎	1	1300
急性呼吸器疾患	1	207
消火器疾患	1	657
脊髄神経根炎	1	452
その他	1	663

(*対象人口は患者数ではない)

学校給食の食材は全て地域外からのものが使われているというが、子どもたちも家に帰れば親と同じものを食べる。ナロジチ病院の測定によれば、住民の体内放射能は、ジトーミル州平均の 30 倍を上回る 10000~20000 ベクレルもあり、日本人の 500~1000 倍である。放射能の最も一般的な影響は、通常言われるガンや白血病ではなく、「加齢」即ち通常よりも早く年をとることである。実際、ナロジチでは子どもたちまでが高齢者の病気である高血圧や心臓疾患にかかる割合が高いことが分かっている。

(河田)